

## GPS/JIPS 安全性要約書

安全性要約書は化学品の安全性に関する総括的、基本的概要を提供するものであって、詳細なヒト健康への影響評価、環境への影響評価、使用上の注意、緊急時の対応等を目的としたものではありません。詳細な物性、安全性、取扱い情報に関しては、この製品の「安全データシート (SDS)」をご参照ください。

### 製品名 (PRODUCT NAME)

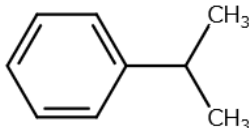
キュメン (Cumene)

### 1. 製品の概要 (PRODUCT OVERVIEW)

- (1) 特異な芳香臭を持つ無色の液体。水に難溶。沸点は 152℃。引火点は 31℃、蒸気は空気と混合し、爆発性混合気体を生成しやすい。また、流動、攪拌などにより、静電気が発生し、引火爆発することがあります。
- (2) 一般用途として、フェノール及びアセトンの合成原料、ラッカー希釈剤などに使用されます。
- (3) 多量に吸入した場合、めまい、運動失調、嗜眠、頭痛、意識喪失等の症状が現れ、また肝臓及び腎臓に影響を与えます。経口摂取した場合、吸入と同様の症状が現れます。飲み込むと肺に吸い込んで、化学性肺炎を引き起こす危険性があります。皮膚に接触した場合、ごくわずかに刺激性があり、眼への接触は刺激性で、発赤、痛みをもたらします。キュメンは、動物試験結で発がん性が認められ、IARC (国際がん研究機構) ではグループ 2B (ヒトに対して発がん性が疑われる) に分類されています。
- (4) 水生生物に対しては、甲殻類、藻類の試験結果から急性及び慢性とも中程度の毒性を示します。
- (5) 通常の実取扱いおよび貯蔵条件下では安定です。火災時には刺激性もしくは有毒なヒュームやガスが放出されます。
- (6) 取扱いは保護手袋、保護メガネを着用し、室内で多量に取り扱う場合は全体換気、又は、局所排気装置を使用してください。
- (7) ・誤飲した場合は、吐かせず直ちに医師の手当てを受けてください。
  - ・多量に吸入した場合は、患者を空気の新鮮な場所に移し安静にし、医師の手当てを受けてください。
  - ・皮膚に付着した場合は、水及び石鹼で洗い流し、必要に応じ医師の手当てを受けてください。
  - ・眼に入った場合は、一刻も早く水で洗浄を行い、製品を完全に洗い流してください。

医師の手当てを受けてください。

## 2. 化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

商品名	キュメン		
一般名	クメン、イソプロピルベンゼン		
化学名	2-フェニルプロパン、Benzene, (1-methylethyl)-		
CAS 番号	98-82-8		
その他の番号	化審法 (3)-22	安衛法 既存物質	EINSCS 番号 202-704-5
分子式	C <sub>9</sub> H <sub>12</sub>		
構造式			

## 3. 使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

一般用途として、フェノール及びアセトンの合成原料、ラッカー希釈剤などに使用されます。

## 4. 物理化学的特性 (PHYSICAL / CHEMICAL PROPERTIES)

外観・色	無色液体
臭気	芳香臭
比重(相対密度)	0.858 (25℃)
融点 / 沸点	-96℃/152℃
可燃性 / 爆発性	引火性があり、火災の危険性がある。
引火点	31℃ (密閉式)

31℃以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがあります。流動、攪拌などにより、静電気が発生ことがあります。強酸、強アルカリ、強力な酸化剤と反応します。

**5. 健康への影響 (HEALTH EFFECTS)**

項目	結果
急性毒性 経口 / 吸入 / 経皮	多量に吸入した場合、頭痛、めまい、嗜眠、運動失調、意識喪失等の症状が現れ、肝臓及び腎臓に影響を与えます。経口摂取した場合、吸入と同様の症状が現れます。また、肺に吸い込んだ場合は化学肺炎を起こす可能性があります。
刺激性 / 腐食性 皮膚 / 眼 / 呼吸器	皮膚に接触した場合、皮膚の脱脂、乾燥、発赤をもたらします。眼への接触は刺激性があり、発赤、痛みをもたらします。
感作性 (アレルギー性) 皮膚 / 呼吸器	モルモットを用いた皮膚感作性試験では、皮膚感作性はありませんでした。
反復投与毒性 経口 / 吸入 / 経皮	反復投与毒性を適切に評価できるデータがありません。
遺伝毒性 / 変異原性	動物、細胞、細菌を用いた試験は陰性でした。
発がん性	動物試験で、発がん性が認められます。IARC(国際がん研究機構)では、キュメンをグループ 2B(ヒトに対して発がん性の可能性がある)に分類しています。
生殖毒性	生殖毒性を適切に評価できるデータがありません。

**6. 環境に対する影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)**

影響評価	結果
水生環境有害性(急性)	甲殻類の試験結果から、急性毒性は中程度と判断されます。
水生環境有害性(慢性)	生物蓄積性は低いと推定されるが、急性毒性が中程度、急速生分解性はないので、慢性毒性も中程度と考えられます。
生分解性	急速生分解性はありません。
生物蓄積性	生物濃縮性試験結果から生物蓄積性は低いと考えられます。

## 7. 暴露 (EXPOSURE)

暴露の対象	暴露の可能性
産業(作業者)	本物質の製造はクローズドシステムで行われますが、メンテナンス、充填、サンプリング、試験検定等、また使用の際には暴露の可能性があるので、防護対策が必要です。対策は8. 推奨するリスク管理措置をご参照ください。
消費者	当社では本物質及びそれを含む最終製品を直接消費者へ販売は行っていません。
環境	製造はクローズドシステムで行われますが、メンテナンス、充填、サンプリング、試験検定等の際には大気環境暴露の可能性がります。また事故等での漏えい、流出時には、大気及び水質環境への暴露の可能性がります。塗料の塗装等に使用された場合には、局所排気装置等の回収装置を経ない場合には大気中へ排出されます。

## 8. 推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

作業者の健康を守るため、眼の保護、皮膚の保護、吸入の防止を図る必要があります。

暴露対象		推奨するリスク管理措置
産業 (作業者)	眼の保護	突発的な飛沫からの眼の保護のため、保護メガネまたは防災面の着用が必要です。眼鏡をかけている場合は眼鏡の上からかけられるゴーグルを推奨します。本物質の暴露の可能性のあるエリアでは、コンタクトレンズの使用は推奨しません。本物質の蒸気はレンズと角膜間に侵入し、痛みを発生するとともに、液体が眼に入った場合にはレンズが固着する可能性があります。
	皮膚の保護	皮膚の保護には多くの種類の保護具が存在します。ゴムまたは樹脂製の保護手袋、アームスリーブ、保護前掛け、保護長靴、全身保護衣、ヘッドカバー等があり、これらを状況に応じて適宜選択してください。
	吸入防止	屋内作業における本物質の吸入防止は、原則として作業環境の改善で対応してください。日本産業衛生学会の作業環境許容濃度は設定されていません。ACGIH(米国産業衛生専門官会議)のTLV-TWA(許容濃度一時間加重平均)は50 ppmであり、

	<p>室内での改善の対応は全体換気、または局所排気装置の設置で行ってください。非定常作業等一時的な対応は有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器が有効です。</p>
応急措置	<p>(1) 誤飲した場合： 吐かせず直ちに医師の手当てを受けてください。</p> <p>(2) 吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。 呼吸が止まっている場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保し、人工呼吸が必要です。直ちに医療措置を受けてください。</p> <p>(3) 皮膚に付着した場合： 多量の水および石鹼で洗い流します。水泡、痛みなどの症状が出た場合は、必要に応じて医師の診断を受ける必要があります。</p> <p>(4) 目に入った場合： この製品が目にはいった場合、数分間多量の水で洗い流し（できればコンタクトレンズを外し）、入った製品を完全に洗い流す必要があります。医師の診断・処置を受けてください。</p>
消火作業	<p>(1) 消火剤：下記のもの有効です 粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂</p> <p>(2) 使ってはならない消火剤： 冷却の目的で霧状水は有効ですが、消火に棒状水を用いないでください。</p>
漏出時の措置	<p>(1) 人体に対する注意事項/保護具及び緊急時措置： 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気をしてください。 作業の際には、保護具を着用し、飛沫等の皮膚付着、ガスの吸入を防いでください。</p> <p>(2) 環境に対する注意事項： 製品が下水、河川、海域へ流出しないよう容器へ回収してください。 少量の場合には、乾燥砂、土等に吸収させて、密閉できる空容器に回収してください。 大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所</p>

		に導いてから処理してください。
	取扱い・保管	<p>(1) 取扱い</p> <p>眼、皮膚、衣類に付けないでください。</p> <p>取扱いは、保護具を着用し、換気のよい場所で行ってください。</p> <p>漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させないでください。</p> <p>(2) 保管</p> <p>火気は厳禁です。</p> <p>日光から遮断して保管してください。</p> <p>換気のよい場所で容器を密閉し保管してください。</p>
消費者		当社では本物質及びそれを含む最終製品を直接消費者へ販売は行っていません。
環境		本物質は、サンプリング作業、装置のメンテナンスなどの際に少量環境中へ放出されますが、通常は閉鎖系プロセスで製造され、使用されるので環境への放出は極めて低いと思われまます。

## 9. 政府機関等のレビュー (STATE AGENCY REVIEW)

キュメン は下記の政府機関等で調査・検討審議されております

EU	European Union Risk Assessment Report Cumene (2001)
EPA	IRIS (Cumene) (1997)
WHO / IPCS / ILO	<p>Concise International Chemical Assessment Document No.18 Cumene (1999)</p> <p>International Chemical Safety Card No.170 (Cumene) (2014)</p>
NITE-CHRIP	GHS 分類結果 ID 23B5530 クメン (平成 23 年度)

## 10. 法規制/分類および表示

### (REGULATORY INFORMATION / CLASSIFICATION AND LABELING)

#### (1) 法規制

法規等	規制状況
PRTR 法	第 1 種指定化学物質
労働安全衛生法	<p>表示、通知対象物</p> <p>施行令 別表 1-4 引火性の物</p>

消防法	引火性液体（第2石油類、非水溶性液体）
船舶安全法	危告示 別表1 引火性液体類
航空法	危告示 別表1 引火性液体
国連分類	3（引火性液体）
国連番号	UN1918: ISOPROPYLBENZENE


## (2) 分類と表示

キシメンのGHS分類（NITE-CHRIP、平成23年度）を参考に当社で分類したGHS分類は以下の通りです。危険有害性を示す項目を示します。

### 分類

危険・有害性項目	分類結果
物理化学的危険性	
引火性液体	区分3
健康に対する有害性	
急性毒性（吸入：蒸気）	区分3
眼損傷性 / 刺激性	区分2B
発がん性	区分2
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分1、区分3
吸引性呼吸器有害性	区分1
環境に対する有害性	
水生環境有害性（急性）	区分2
水生環境有害性（慢性）	区分2

### 表示

絵表示またはシンボル	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引火性液体および蒸気</li> <li>・吸入すると有毒</li> <li>・眼刺激</li> <li>・発がんのおそれの疑い</li> <li>・臓器の障害（中枢神経系、肝臓、腎臓）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器への刺激のおそれ、または、眠気又はめまいのおそれ</li> <li>・飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ</li> <li>・水生生物に毒性</li> <li>・長期継続的影響によって水生生物に毒性</li> </ul>
--	--

## 11. 連絡先 (CONTACT INFORMATION WITHIN COMPANY)

会社名 東ソー株式会社  
 住所 東京都港区芝 3-8-2  
 担当部門 環境保安・品質保証部  
 電話番号/FAX 番号  
 03-5427-5127 / 03-5427-5203

## 12. 日付 (DATE OF ISSUE/REVISION)

制 定	2019年12月17日
改 訂	

## お断り (DISCLAIMER)

安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み (GPS / JIPS=Global Product Strategy / Japan Initiative of Product Stewardship) の一環として作成されたものです。安全性要約書の目的は、対象製品の概要情報を提供することであり、リスク評価のプロセス及びヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を詳しく提供するものではありません。また、通常の使用法として想定された範囲内に関する安全性情報を提供するものであり、大量摂取、大量流出を伴う事故等の健康影響や環境影響については言及していません。なお、記載内容は現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、その正確性を保証するものではありません。